



提供:関東地方整備局

水害から地域を守るために

平成27年9月関東・東北豪雨により、全国各地で浸水被害等が発生し、特に鬼怒川の堤防が決壊した茨城県常総市では、約1万1千棟が浸水するなど甚大な被害が発生しました。

台風18号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となり、9月10日から11日にかけて関東・東北地方では16地点で24時間降水量が観測史上1位を記録しました。

この豪雨により、茨城県常総市三坂町では鬼怒川の堤防が約200m決壊し、決壊箇所付近では河川からの氾濫流により多くの家屋が倒壊・流失しました。

国土交通省では、常総市に対して、はん濫危険情報や浸水想定区域図などを提供するとともに河川の状態について電話連絡などを実施しましたが、常総市の鬼怒川の東側エリアは、防災拠点である常総市役所を含む約40kmに及ぶ広範囲が浸水し、約4,300人が救助されるなど、避難の遅れや避難所の孤立化が発生しました。

太田川河川事務所では、これらの災害を受けて

- ① 堤防決壊に伴うはん濫流による家屋の倒壊・流出
 - ② 地方公共団体による避難判断、広域避難
 - ③ 避難の遅れと長時間・広範囲の浸水による多数の孤立者の発生
- の3点を対処すべき主な課題と捉まえ、関係市町や堤防沿いにお住まいの住民の方々の不安や懸念に応えるための「避難を促す緊急行動」として次頁の内容を実施致します。

避難を促す緊急行動

市町村長が避難の時期・区域を適切に判断するための支援

地域住民が自らリスクを察知し主体的に避難するための支援

① トップセミナーの開催

- ・水害対策チェックリストの作成、周知
- ・避難のためのタイムラインの整備
- ・洪水予報文、伝達手法の改善
- ・市町へのリアルタイム情報の充実

③ ハザードマップポータルサイトの周知と活用

- ・家屋倒壊危険区域の公表
- ・地域住民の所在地に応じたリアルタイム情報の充実

② 洪水に対しリスクが高い区間の共同点検、住民への周知

- ・はん濫シミュレーションの公表

※上記①②③以外の項目については、今後、来年の梅雨時期までに順次取り組みます。
※各々の取り組みイメージは本省ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/>) でご覧頂けます。

取り組み① トップセミナーの開催

太田川水系トップセミナー開催

太田川流域のトップと出水時の対応について説明・情報共有

11月9日、広島市役所において、太田川水系の首長(安芸太田町長を始め広島市の各区長)にお集まりいただきトップセミナーを開催しました。

平成27年9月関東・東北豪雨を受けて、「避難を促す緊急行動」の一環として、洪水予報やホットラインなど、出水時に河川管理者から各自治体へ提供する情報提供とその対応等について、再確認を行いました。

気象台から、「命を守るための防災気象情報の利活用」の情報提供がありました。国土地理院から、災害時の地図情報や航空写真の提供や平成26年度から運用を開始した「統合災害情報システム(DiMAPS)」*や「浸水ナビ」*に関する情報提供がありました。

※小瀬川については10月22～23日に個別に実施済



中国地方整備局 河川部長



安芸太田町長



太田川河川事務所長



広島地方気象台長



トップセミナー開催状況

取り組み② 洪水に対しリスクが高い区間の共同点検、住民への周知

沿川住民との共同点検を実施

太田川河川事務所では、平成27年9月の関東・東北豪雨で、鬼怒川の堤防が決壊し茨城県常総市において甚大な被害が発生したことを受けて、「洪水に対しリスクが高い区間(重要水防箇所等)」において各行政機関で共同点検を実施するとともに、沿川住民の方にも参加頂きお住まいの地域での避難行動に理解を深めて頂きました。

また、浸水ナビ*等により、危険箇所が決壊した場合の浸水の広がりについても説明を実施しました。



【天満川左岸1K600付近】11月4日実施己斐出張所管内の天満川舟入地区においての共同点検状況。地元の町内会や水防団、消防や広島市の担当者など、約30人が参加されました。

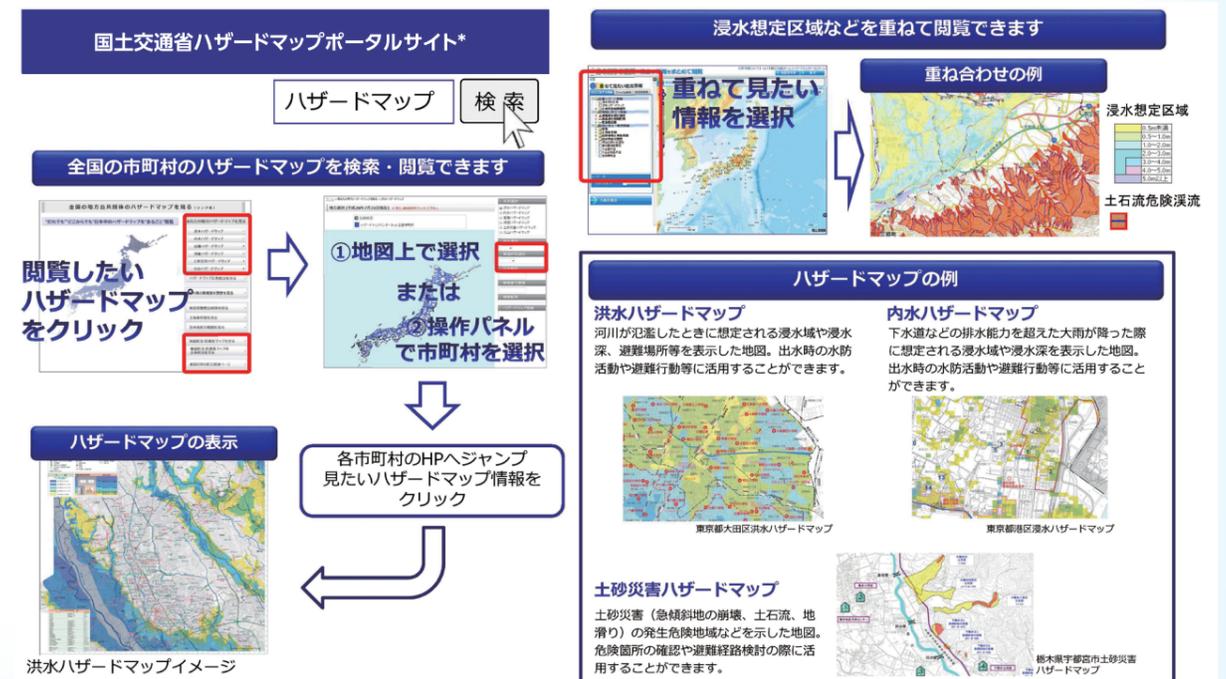
重要水防箇所(太田川河川事務所管理区間内)については、太田川河川事務所のホームページで公表しております。

《URL:<http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/>》



取り組み③ ハザードマップポータルサイトの周知と活用

国土交通省ハザードマップポータルサイト



*「統合災害情報システム(DiMAPS)」 「浸水ナビ」 「国土交通省ハザードマップポータルサイト」は、太田川河川事務所ホームページ (<http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/>) トップページのバナーからリンクしています。

気象キャスターと協力して、防災フェアを実施



気象キャスターのブースも盛況でした



「浸水ナビ」のデモを行いました



降雨体験機によるゲリラ豪雨の体験

10月11日にエディオンスタジアムで開催された「スポーツレクリエーションフェスティバル」に気象キャスターネットワークの方と協力して防災フェアを実施しました。

イベントでは、気象キャスターネットワークの方々は「気象」について、太田川河川事務所は「防災」についてと、各々が得意とする分野について、わかりやすく来場者に説明を行いました。

当日は、今年の7月から運用を開始した「浸水ナビ」のデモンストレーションを行いました。「関東・東北豪雨」から間もないこともあり、多くの方が関心を持ってくださり、自分の家の周辺について「浸水ナビ」で確認したり、「浸水ナビ」にデータがない場所は「ハザードマップ」を見ながら質問される方が数多くいらっしゃいました。

また、イベントに持ち込むと好評な「降雨体験機」ですが、今回は400名以上の方が体験され、イベント開始から終了まで切れ間なく希望者の列が続き大盛況でした。

砂防堰堤(鳥越川)の現場内に見学台を設置しました



国土地理院の電子国工基本図(標準地図ズームレベル16)を使用したものである。

現地は工事用車両が通行しています。見学の際は十分注意していただき、見学台及び通路以外には立ち入らないよう、お願いします。



見学台(鳥越川(299溪流))



見学台入口(鳥越川(299溪流))



見学台からの眺望(緑井八丁目の鳥越川(299溪流))

太田川河川事務所では、昨年8月20日に発生した広島豪雨土砂災害に対し、24の溪流において「砂防堰堤等の緊急事業」に着手しています。

この度、安佐南区緑井八丁目の鳥越川(299溪流)砂防堰堤工事現場内の高台に、工事状況が眺望できる見学台を設置しました。見学台からは間近に砂防堰堤ができる過程を見学することができますので、ご利用下さい。なお、現地は工事用車両が通行しています。見学の際は十分注意していただき、見学台及び通路以外には立ち入らないよう、お願いします。

今後、砂防堰堤工事が最盛期を迎えますが、太田川河川事務所のホームページや現場見学会と併せ、他の溪流においても可能な限り見学台を設置し、工事の進捗状況を情報発信します。工事用車両の通行などで、地域の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご協力お願い致します。

